



【2年次・資格取得】実用英語技能検定 準1級 合格

先日、実用英語技能検定の合否結果の通知がありました。本校での合格者は、準1級3名、2級1名、準2級11名、3級5名でした。準1級は大学レベルの英語力で、大学入試では得点化されるなど、英検の資格を得ておくことで優位に働きます。普段からの英語の学びが成果として現れました。そこで、今回は、準1級に合格した2年次生3名（写真は右から、大橋 永暉さん（光洋中）、北村 悠斗さん（歯舞学園）、林 空之介さん（光洋中）、担任の三上先生）に質問形式（Q&A）でのインタビューをしました。以下、敬称略とします。



Q1 どのような勉強をしてきましたか？

A1 【大橋】単語を覚え、1、2年生で学ぶ文法を勉強しました。【北村】基礎となる単語を覚え、その単語が長文でどのように使われているのかを確認していきました。【林】英文を読むためには単語を覚える必要があり、次に文法を勉強しながら長文読解をしました。

Q2 高校に入学するまでの英語に対する印象はどうでしたか？

A2 【大橋】中学では学習塾で週2回ほど勉強をしてきていたので、英語が好きで得意科目でした。【北村】中学までは英語は嫌いでした。学力テストでも英語の成績は良くなかったです。【林】中学では英語はできなく、英語の勉強はしませんでした。しかし、アメリカの文化に興味・関心 がありました。

Q3 高校で本格的に英語の勉強してみてどうでしたか？

A3 【大橋】英語に対する苦手意識はありませんでした。しかし、時事問題の英文は単語や文法など、中学時代と比べると高校では難しくなっており、深く考えることが多くなりました。【北村】大学進学を目標としているため、模擬試験（模試）の英語の偏差値を上げていく必要があります。苦手と言っている場合ではありませんでした。1年生の11月頃から本格的に英語の勉強していくと、英語の模試偏差値も上がっていき、英語に興味を持つようになりました。将来は、海外旅行をして英語で普通に会話をしたいと思っています。【林】東京の大学を目指しているため、先生からは安定して点数が取れる教科をつくりなさいとアドバイスを受けました。なかなか点数は伸びませんでした。勉強していくうちに点数が伸びていくことを実感しました。在学中に英語検定資格とれば、大学の入試点に換算できる点も学びのモチベーションを高めてくれました。

Q 4 将来の夢を教えてください。

A 4 【大橋】英語を活かした国際的な職業に就きたいと思っています。そのため、世界の共通語としての英語をしっかりと身に付けたいと思っています。【北村】英語を話せることはかっこよく、海外の多くの方々とコミュニケーションを取り刺激を受けたいと思っています。【林】東京に行き、色々な人と関わりたい。海外旅行などの経験もしたいと思っています。

Q 5 後輩（1年次や入学生）にアドバイスをお願いします。

A 5 【大橋】学校生活を充実させることです。勉強をしっかりとやり、学校行事、部活、友人との遊びなどメリハリのある学校生活が大切です。特に、英語の勉強としては単語と文法をしっかりとやることで、結果は付いてきます。【北村】具体的な目標を持つことです。目標を定めるとそこに向けて努力しますが、目標がないと勉強にも力が入りません。【林】大学進学を目指すなら、勉強するクラスに入って勉強をすることです。勉強する雰囲気になり周りからも刺激を受けることができます。

最後に、A組※担任（2年三上先生）について聞いてみました。3名の生徒からは、第一印象は、怖い先生だと思っていたが、常に自分たちに寄り添ってくれている。授業中は緊張感はあるが、個人的にわからない所を聞きに行くと親切に分かり易く教えてくれる。進路の相談にも積極的に関わってくれ、教科指導も含めリスpektしているなどの話をしてくれました。

〈インタビューを終えて〉

3名の生徒が大学や将来の夢を話している際、笑顔で目を輝かせながら話をしてくれたのが印象的でした。将来の夢を明確に持ち、目標達成のために日々自己の学びの振りながら勉強時間を確保していました。また、継続した努力が結果となって現れてくることで勉強を楽しんでいるようにも見えました。

私の高校時代の先生からは、それなりの大学を目指すなら学年プラス2時間の勉強時間（2年生：2 + 2 = 4時間）が必要だとアドバイスを受けました。ちなみに、東大進学者は一般的に10時間の勉強時間を確保し、楽しみながら勉強しているとのこと。

ドラゴン桜でもありましたが、勉強は一人でするものではなく、仲間や先生達とみんなで、楽しみながら行うものです。切磋琢磨して夢への実現を叶えて欲しい思います。

※A組（特設クラス）について

本校では平成29年度入学生より単位制を導入するとともに、個に応じた指導の更なる充実のため、1年次普通科から1クラスを「特設クラス」としています。

学力差を補ったり、学力上位層などの生徒からなるクラスを設けることで、個に応じた指導、学力の更なる向上を図っています。大学進学希望者に限らず、学びをさらに深めていきたい生徒が多くいます。なお、他の普通科でも大学進学は可能です。

（入学の手引きより一部抜粋）